

令和7年度 周布まちづくりセンターの主な取組

事業名

知ってみたい **防災知識**

繋がってみたい **地域の絆**



P

●事業実施に至った背景、目的

いつ、どこで起こるかわからない「災害」、地域全体で防災意識を高め、この活動を通して、異世代交流を図り、自分の命は自分で守る力（自助）、地域全体で「顔見知り」を増やし、助け合う力（共助）を育てたい。

●事業を実施するまでの過程(関係機関との打ち合わせ等)

ひまわり工房とVR体験について内容確認（地震VRを行ってほしいと依頼）
周布地区防災士の方々に協力依頼（避難所体験や非常持出品展示など）
子どもみらチャレ（※）が屋台販売をするための事前準備（やりたいことを実現していく）
中学生ボランティアに協力要請・前日準備（肝試しを中心とし、他のブースも担当していく）

※：子どもみらチャレとは、小学6年（希望者）がやりたいことをセンターが形にしていける事業のこと

D

●事業の概要

- ・避難所体験（間仕切りを使った避難所体験・段ボールベット・簡易トイレ・非常持出品展示）
- ・放水体験（水消火器を使っての的に向かって放水）
- ・VR体験（首都直下型地震を模擬体験し、地震の恐ろしさを知る）
- ・暗闇体験（肝試しを通して暗闇に潜む危険を体験する）
- ・屋台販売（参加者の憩いの場（つながりの場）を提供）

C

●事業実施後の振り返り

普段まちセンに来られない若い子育て世代の方を含め、子どもから大人までたくさんの来館者があったことは大きな成果である。また、参加者に各ブースをまわってもらうためにスタンプラリーを取り入れたことで、どのブースもまんべんなく体験してもらうことができた。

中学生ボランティアや子どもみらチャレも活躍し、活動を盛り上げてくれた。

A

●今後の方向性

- ・集客を見込むために夏休みを利用し継続していく。
- ・熱中症対策として、館内でできることは限定されるが、中学生ボランティアからの意見も取り入れながら事業展開できるよう進めていきたい。とはいえ、あまり手を広げすぎると職員対応が難しいので、対応できる範囲にとどめたい。



受付



放水体験



避難所体験



暗闇体験



屋台販売



VR体験

